



# ミライカナエル活動サポート事業 ～令和5年度実施事業報告～



## 市民活動は未来へ

藤沢市役所 市民自治推進課  
電話 0466-50-3516  
FAX 0466-50-8407  
Eメール [fj1-jiti-s2@city.fujisawa.lg.jp](mailto:fj1-jiti-s2@city.fujisawa.lg.jp)



## スタート支援コース

番号	区分	団体名	事業名
1	一般枠	サニーデイサーフクラブ片瀬西浜	安心安全な片瀬西浜サーフ&クリーン事業
2	一般枠	藤沢市プレスクール教室	藤沢市プレクラス教室
3	一般枠	江の島ティラノサウルスレース実行委員会	ティラノサウルスレースの企画・運営
4	一般枠	あさがおプロジェクト	東京2020オリンピックレガシー継承事業
5	ユース枠	高校生ミュージカルAqua	高校生ミュージカル@地域部活

## ステップアップ支援コース

番号	団体名	事業名
1	特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク	マンション運営管理のサポート強化
2	NPO法人 とことこ	『Wa project』ツナグⅡ
3	ふわふわの会	発達障がいみんなのあるあるあつめ事業

## 協働コース

- ・ 事業1年目(2年間実施)

番号	区分	団体名	協働相手	事業名
1	行政との協働	みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ	藤沢市 子育て企画課	子どもの居場所スタートアップサポート事業

- ・ 事業2年目(2年間実施)

番号	区分	団体名	協働相手	事業名
1	行政以外との協働	特定非営利活動法人 湘南食育ラボ	特定非営利活動法人laule'a	ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン
2	行政以外との協働	関内イノベーションイニシアティブ株式会社	株式会社フジマニパブリッシング	湘南セカンドキャリア地域起業セミナー

〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	サニーデイサーフクラブ片瀬西浜
事業名	安心安全な片瀬西浜サーフ&クリーン活動
補助金額	153,000円
<b>事業の目的</b>	
サーフィン後に5分程度ビーチクリーン活動する「サーフ&クリーン活動」を習慣化するサーファーを増やし、プラゴミやガラス片の無い安心安全な片瀬西浜海岸を実現する。未着手の海に浮かぶプラゴミの回収にも挑戦する。	
<b>事業の内容と成果</b>	
<p>〈事業の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月：1～2回、平日にサーフ&amp;クリーン活動（会員4～6人+ゲスト参加1～6人）。</li> <li>8月、9月10月、11月、3月にKBCC定例ビーチクリーン活動に会員2～3名人参加。</li> <li>9月：サーファーズBBQイベント（ビーチクリーン活動）に会員3人参加し約20人に活動をPR。</li> <li>11月：購入図書を使い海での勉強会を実施。</li> <li>12月：千葉県南房総市への出張サーフ&amp;クリーン活動(会員3人)。</li> <li>3月：購入図書を使い海での勉強会を実施。新役員メンバーでのオンライン会議を実施。</li> </ul>	
	<p>〈成果〉</p> <p>20名だった活動家が、30名まで増えた。それが2年4か月後に100名になるかは、30名の方々にかかっている。8月から3月まで、平日早朝サーフ&amp;クリーン活動を10回開催、ここではゲストとして入会していない人を招聘したことにより、活動を体験し共感して頂く良い機会だった。当会メンバーは1名退会、3名の入会があった。制作したノベルティ（サーフキャップ、ステッカーなど）をゲストに配布し、今後の活動定着の足掛かりとした。鵜沼ビーチクリーンクラブ（KBCC）の月1回定例ビーチクリーン活動（毎回100名程度参加）にも毎回参加し交流を図った。これら活動を通じて、先に述べた30名が40名程度まで増える手ごたえを感じている。</p>
	
<b>事業を実施しての課題</b>	
<p>全体としては、納得のいく活動ができた。会員の意識も向上したと思う。これははじめから予想していたが、活動日＝海ゴミが多い日とは限らず、特に冬場はほとんど海岸ゴミがないが、大雨や台風、南風の後には大量のゴミが押し寄せる事を再認識した。ゴミの量に対して、機動的に活動できるサーフ&amp;クリーン活動家はまだまだ少ないし、自身もできていない。対策として、SNS等を活用して、前日に活動を呼び掛けるなど、活動メンバー個々の発信が考えられる。</p>	



## 〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

<b>団体名</b>	藤沢市プレスクール教室
<b>事業名</b>	藤沢市プレクラス教室
<b>補助金額</b>	200,000円
<b>事業の目的</b>	
藤沢市内の小・中学校に転入する外国につながる子どもが困難を抱えることなく学校生活がスタートできるよう、子どもとその保護者を支援する。また、関係部署と連携を図り継続的な支援を目指す。	
<b>事業の内容と成果</b>	
<p>＜事業の内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月～3月：藤沢市プレクラス準備会議（7回、メンバー5～9人）</li> <li>・ 8月：第1回藤沢市プレクラス実施（藤沢青少年会館）</li> <li>・ 11月：藤沢市プレクラス報告会実施（青少年会館）</li> <li>・ 3月：第2回藤沢市プレクラス実施（湘南台公民館）</li> </ul> <p>＜成果＞</p> <p>1.プレクラスは、8月と3月の2回行い、それぞれ2日間かけて開いた。参加者は、累計35名（第1回7名、第2回28名）、見学者が累計17名（第1回10名、第2回7名）。保護者の出身国は、5か国であり、通訳の言語は、6言語となった。保護者へのアンケートによると、内容に対する評価は高く、日本の学校に入る前の不安の解消に多少つながったと考えられる。子どもの情報を教育委員会や学校と共有してもよいとアンケートで了承を得た方については、教育委員会の日本語コーディネーターと情報共有した。これらのことから、スムーズに学校生活を始められる一助となったと考えられる。見学者を通して横須賀市初期集中指導教室でのプレスクール教室の見学の機会が得られ、他市との情報交換もできた。学校関係者や藤沢市内外の地域での関心が高まり、今後もつながりが期待されることから、多文化共生がいくばくか進んだと考えられる。</p>	 <p>2. プレスクール報告会は1回行い、参加者は5名。所属は、藤沢市みらい創造財団、藤沢市日本語指導員、国際教室担当者、保育園の保護者であった。報告会をきっかけに、みらい創造財団が学童へもチラシを配付することになる等、目標としていたネットワークづくりにつながった一面もあったが、そのほかの団体とのネットワークづくりにはつながらなかったことが課題として残った。ただ、参加者のうち1名がプレクラスに興味を持ちメンバーに加わり、活動の賛同者を得るといった成果はあった。</p>
<b>事業を実施しての課題</b>	
<p>1.周知のための準備不足。開催日を平日か休日か、どの曜日か、どの時期がよいのかなど、経験不足で、決定が難しかった。/2.外国につながる保護者への周知方法。周知先を広げているが、周知の期間をもっと設ければ情報が届くのか、届いても意義が伝わるかわからない。住民登録をしてから、藤沢市内での切れ目のないアプローチを市内で構築し、各部署でその意義を理解してもらう必要がある。/3.保護者の言語への対応。メンバー以外の通訳となると、翻訳は依頼できない。できるだけ多くの言語の通訳者とつながりを作っておくことが必要である。/4.参加できる子どもの線引き。対象とする子どもを広げたところ、認知的発達だけでなく、日本語レベルも多様になった。子どもグループの講師の手配や、準備が複雑になった。また、保護者グループも、中学校の説明も加わると情報量が多くなり、消化不良気味になった。/5.事業継続のための分担。さまざまな専門分野のメンバーが適材適所で活動できるよう整理する必要がある。/6.申し込み人数や通訳が必要な言語がわかるまでの人員の予算化が難しい。/7.チラシや申し込みフォームの改良。チラシの地図がわかりにくく、迷って遅れた参加者もいた。</p>	

〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	江の島ティラノサウルスレース実行委員会
事業名	ティラノサウルスレースの企画・運営
補助金額	200,000円

事業の目的

ティラノサウルスレースを通して体を動かす機会を創出して、老若男女の交流を図る。また、鵜沼海岸でイベントを実施することで、藤沢市民以外の参加者に鵜沼海岸の良さを感じて頂き、継続した来訪者誘致に繋げる。

事業の内容と成果

＜事業の内容＞

●第4回江の島ティラノサウルスレース開催

- ・9月：レース開催の企画・概要作成。
- ・10月：備品等の準備物の手配を始める。  
レースについてSNS（X、Instagram、ホームページ）で告知。  
エントリー開始、1日で定員の300名の応募があり受付終了。



- ・11月：大会を盛り上げる特別ゲストとして、トランペッター・盆女・華道家に出演交渉→快諾。  
Locomo 湘南さんと近隣店舗でのクーポン・特典の依頼。
- ・12月：ボランティアの交通費を払う代わりに、ボランティアスタッフTシャツ配付に変更した。  
コロナ・インフルエンザの影響で多数のキャンセルもあり、最終的には260名の参加者で大会実施。

●「江の島ティラノサウルスレース交流会（水の陣）in えのすい」  
（閉館後の新江ノ島水族館を貸し切り、オフ会実施）

- ・8月：えのすいさんと打合せするが、コスト的に折り合いつかず。
- ・10月：コスト低減の為えのすいさんと再交渉の末、シーズンオフの平日に開催することに決定。  
オフ会開催の企画・概要作成。
- ・11月：SNS（X、Instagram、ホームページ）で告知。エントリーを開始。
- ・12月：集客に苦戦し、最終的には12名の参加者でオフ会開催。  
モノマネのできるMCにてオフ会を盛り上げてもらう。



＜成果＞

大会にて砂浜ランの効果を説明し、砂浜ラン会への勧誘を行った。3年前は数名でやっていたが、現在ではレース参加者がそのまま砂浜ランに来るようになったわけではないが、口コミで広がり常時20～30名の参加者で実施している。大会開催週には、Locomo 湘南さんに協力を得て、30店舗以上に協力依頼はしたが、最終的には8店舗の鵜沼海岸商店街の飲食店のご厚意でクーポンや特典をご協力いただき、参加者にも利用いただくことに成功した。

事業を実施しての課題

- ・自前の道具や設備を持ち合わせていないため、そのレンタル料や、謝礼に費用がかさんでしまう。
- ・また、安全確保のために、スタッフを厚く配備する必要もあり、その謝礼も費用がかさんでしまう。
- ・大規模になればなるほど、受付に時間がかかってしまうため、受付の効率化が必要。
- ・ブームが過ぎ去った後の活動を模索中。

〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	あさがおプロジェクト
事業名	東京2020オリンピックレガシー継承事業
補助金額	200,000円

事業の目的

東京2020オリンピック競技大会の際に、会場に飾られたあさがおの種を引き継いで育て、パリ大会で配布することで、東京2020オリンピック競技大会のレガシーを残すことを目的とする。

事業の内容と成果

〈事業の内容〉

- ・8～3月：ワークショップ開催（押し花カード作り）
- ・8月：ミニフラワーレーン再現、メッセージ集め（片瀬すばな通りすばな会館前にてあさがお鉢植えを持ち寄り、展示し、通行人を対象にオリンピック選手へのメッセージを収集）  
湘南台アートスクエアサマーフェスタにて押し花カードのメッセージ収集、ぬりえ配布
- ・10月：時を超えるカード（2028年に届く郵便）募集（ワークショップの際に親子に声がけし募集した）  
片瀬ふれあい祭りに出展
- ・11月：展覧会・ワークショップ（ぬりえ・写真・製作物展示、動画再生）
- ・随時：サポーター、協力団体から郵送・手渡してあさがおの種回収



〈成果〉

- ・あさがおサポーター 106名（オープンチャット参加者）
- ・あさがお種回収団体等 120名、13団体
- ・あさがおの種収穫 4キロ以上
- ・ワークショップ参加 25回開催 延べ312名
- ・タイムカプセル郵便参加 107組（親子）

事業を実施しての課題

事業に必要な経費の大半を補助金に頼っており、今後の自主財源確保の目処が立っていない。

〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

<b>団体名</b>	高校生ミュージカル Aqua
<b>事業名</b>	高校生ミュージカル@地域部活
<b>補助金額</b>	200,000円
<b>事業の目的</b>	
学校の枠を超えたミュージカルの団体を新たに創り、公演を行うことで、地域部活の必要性や可能性を示します。それにより、新たな地域部活の誕生やそれらを地域全体で盛り上げるきっかけとなることを目的とします。	
<b>事業の内容と成果</b>	
<p>＜事業の内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月：週3回練習、週2回のMTG。</li> <li>・8月：団体紹介チラシ作成。11月と合わせて1300部印刷。合宿。 「湘南台アートスクエアミライに羽ばたけ夢コンサート」で歌とダンスのパフォーマンス。</li> <li>・10月：「藤沢市市民活動トークイベント」での歌唱披露、PR。</li> <li>・11月：「藤沢 SST 文化祭」「湘南台子育て応援メッセ親子コンサート」「SASP 主催 Discover New Stars」「イルミネーション湘南台点灯式」での歌とダンスのパフォーマンス。</li> <li>・12月：藤沢市市民活動推進センターのイベント「ワカモノ×地域クリスマス交流会」での歌唱披露、PR。 「江ノ島ティラノサウルスレース」開会式でのダンスパフォーマンス。合宿。</li> <li>・1月：本番公演チラシ作成。1700部印刷。</li> <li>・2月：チケット販売開始。舞台監督顔合わせ。</li> <li>・3月：脚本完成。大道具・小道具制作。音源・効果音・衣装 決定。パンフレット作成。 クラウドファンディング 18日間で20万円達成。 本公演実施：昼夜2回公演 新堀ライブ館楽友ホール 来場者数延べ367人（藤沢市その他近隣地域の方々）・出演者（高校生）9人 スタッフ26人</li> </ul> <p>＜成果＞</p> <p>広報誌への掲載や地域のイベント出演により、応援していると声をかけられたり SNS のフォロワーが増えたりして、この団体や地域部活の存在が広まっていくことを実感しました。また、3月の公演では、昼・夜あわせて400席が完売しました。関わってくれた地域の方や企業、観客から、「想像以上のクオリティだった。」「元気をもらえた。」「感動した。」などと感想をいただき、多くの人の心を動かすことができました。</p> <p>メンバー自身は、これまでの活動を経てそれぞれの夢や興味関心が広がったり、苦勞の先にある感動を経験したことで大きく成長したりして、可能性を広げられました。さらに、公演後に次年度この団体に参加したい、自分の地域でもこのような団体をつくってみたいという声もあり、次につながる一歩となりました。また、7団体と1名の方から協賛金をいただき、31名の方がクラウドファンディングに協力してくださいました。</p>	
<b>事業を実施しての課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中から大人の協力を得たが、はじめは経験のない高校生だけで進めていたことから、意見がまとまらず脚本完成が遅れてしまいました。遅れたことで、公演に関わる全ての準備が遅くなり、本番直前にそれが負担となって練習に多く時間を割けませんでした。</li> <li>・制作メンバーとキャストメンバーの情報共有がうまくいかず、お互いの負担となり、それぞれの力を十分に発揮できませんでした。</li> <li>・練習面では、講師の方に指導をお願いする機会が少なく、思うようにスキルアップできませんでした。</li> </ul>	



## 〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク
事業名	マンション運営管理のサポート強化
補助金額	500,000円

### 事業の目的

・藤沢市内に約2割を占めるマンションの管理運営に関するサポートを行う。住民生活の向上、マンション居住者間の新たなコミュニティ組織の形成と運営の活性化を目指し、安全で安心なまちづくりに寄与していく。

### 事業の内容と成果・効果

#### 〈事業の内容〉

- ・毎月：各1回ずつ、藤沢無料相談会（延べ参加者13人）、鶴沼無料相談会（延べ参加者4人）、研修交流会（延べ参加者127人）を実施
- ・10月、3月：セミナー開催（延べ参加者37人）
- ・11月～3月：藤沢市HPにバナー掲載
- ・2月：新パンフレット作成・配布

#### 〈成果〉

1. 2023年度の管理組合正会員数の目標（目標・15管理組合）に対して、15管理組合の入会数となり、目標を達成した。
2. 2023年度の業務及び顧問管理組合数の目標（目標・6管理組合）に対して、5業務・顧問数となった。
3. 2023年度の定期相談件数の目標（目標・20件）に対して17件の相談件数となった。
4. 2023年度の研修交流会の参加者数の目標（目標・160名）に対して、127名の参加者となり、2022年度と横ばいとなった。

以上、2023年度の目標に対して、一部達成の状況となった。

5. 当会の活動の周知のために、行事のチラシの発送・ポスティングを市内のマンションに対して実施した。さらに、藤沢市のホームページに当会のバナーを掲載したほか、パンフレットもデザインを一新して1万部印刷し、藤沢周辺のマンションにポスティングした。その結果、年度末以降セミナーや研修交流会に新しいマンションの管理組合が参加するようになり、マンション管理組合同士の交流が活発になった。



### 事業を実施しての課題

1. 広報活動を拡大した結果、入会会員の増加、相談会やセミナー、研修交流会への新しい参加者が増加したなどの効果があったと思われるが、まだ参加するマンションが限られている。
2. 藤沢市のHPへのバナー掲載による広報については、会員の増加会費等で費用の捻出を検討していきたい。
3. 活動する人材が限られており、活動範囲や頻度を拡大するのが難しい。
4. 活動しているスタッフに、報酬を配分できるような状況になっていない。

〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	NPO 法人とことこ
事業名	『Wa project』 ツナグⅡ
補助金額	500,000円

事業の目的

「ベビーからシニアまで笑顔のWaを一緒に」をモットーに第三の居場所となる交流の場や催しを提供し、笑顔で安心して暮らすための情報共有やきっかけをつくることを目的とする。

事業の内容と成果・効果



〈事業の内容〉（人数はスタッフ含む総数）

【定期イベント】

- ・8～3月：◇あおぞらおはなしかい/橘公園/第1土曜/計230名◇とことこ Café/橘市民の家/第1・第3火曜/計126名◇藤が谷親子の縁側/藤が谷市民の家/第2・第4木曜/主催：藤が谷みんなの縁側（親子さんの見守り）◇ビーチクリーン/鵜沼海岸/毎月1回（雨天中止）/122名/共催：フェリスステップ・KFP 鵜沼おやしぱトロール隊

【地域他団体と定期交流】◇くげぬま子育て応援メッセ実行委員会に所属◇鵜沼

公民館サークル交歓会・定例会等に参加

【主催イベント】

- ・8月：夏休み親子企画 地震体験&消防署見学 /103名
- ・9月：くげぬま探検まち歩き（歴史と防災） /12名
- ・10月：片瀬江ノ島駅ひみつ大発見 共催：小田急電鉄 /49名  
ハロウィンパレード 協力：本鵜沼駅前商店街/35名
- ・3月：防災アウトドアクッキング/協力：湘南喃の風/12名  
落語と防災のおはなし 桂福丸/藤沢市役所 /47名

【出張おはなしかい・出展でツナガル】

- ・9～3月 10回 他団体主催のイベントに出展  
「藤沢の昔話」口演、活動展示・防災対策紹介、イベント広報・準備・司会、おはなしかい、紙芝居、昔遊び・太鼓体験・クイズほか



〈成果〉

- ①今年度も、おはなしかい・とことこ Café・藤が谷親子の縁側・ビーチクリーンで月6回、定期的に地域交流の場を開催できた。
- ②期間中、地域交流イベントを6つ主催した。昨年に引き続き大人も子どもも楽しみながら防災を学べる機会をつくり情報発信もしている。
- ③地域のボランティアの方達20名以上に特技を活かして活躍していただいた。その他に期間中のビーチクリーンに延べ122名が参加した。
- ④Facebookグループ『鵜沼を愛する会 Wa project』は目標設定時より約600名増加。2024年3月31日の登録者2,244名で目標達成した。地域の魅力や課題なども共有する交流の場となっている。
- ⑤20以上の企業や団体と協同・協力し活動の幅をひろげることができた。出張おはなしかいや、イベント出展の依頼も増え活動の場も地域のつながりもひろがっている。つどいの場やビーチクリーンなどのイベントで、日頃から顔見知りをつくるのが、災害時の円滑な「共助」にもつながるということを伝える貴重な機会になった。また、イベントで一緒にしたことがきっかけで、くげぬまつながり隊の月刊広報誌にとことこのイベント情報を掲載していただけるようになった。更に、これまでの活動を評価していただいた企業から50万円の寄付金をいただくことができた。

事業を実施しての課題

広報力不足に課題があったため、ミライカナエルの事業費でポスター作製やメディア対応を外注した。今後はさらに多くの人に情報が届くように、プロの力も借りながら効率よく広報したい。

〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	ふわふわの会
事業名	発達障がいみんなのあるあるあつめ事業
補助金額	434,000円

事業の目的

現在、成人後に発達障がいを知った方は実数すら把握されていない。市内の発達障がい傾向を持ち孤立する方々が同じ悩みを持つ人と出会い本来の自分らしく居られる場を提供し、周囲に理解を促すための材料を提供したい

事業の内容と成果・効果



〈事業の内容〉

- 8～3月：あるあるあつめ冊子編集会議（全13回/会員4～14人）
- 9月：「発達障がい者の怒り」について講義を受ける（会員12人）
- 12月：福祉フェスタ「あるあるあつめ」ポスター展示とチラシ配布  
市役所内「市民活動紹介パネル展示」参加。チラシ30枚用意 反響10件内当事者会へ参加8人
- 3月：あるあるあつめ冊子発送作業（青少年センター・友好団体・18支援施設等）  
1・2冊目100部 3冊目200部を配送

〈成果〉

テスト版を作成し関係先にご意見を伺うことで当初の予定を大きく変更することになった。結果8ページの冊子「あるあるあつめ」を2冊、14ページを1冊纏めることが出来た。

見やすく解りやすい構成に拘ったことで今後の冊子制作への方法が見えたことは収穫だと捉えている。また作成に際し話し合いを重ねることで、関わった方が自分自身の問題として向き合った結果、お互いの相互理解を深めることが出来た。結果として、当事者会を持ちたいとの意見が上がった。2024年1月より「発達障がい当事者会」を試みとして開始することに繋がった。本会の長年の課題であった、当事者へ声を届けるという課題へのステップアップとして何よりの成果と考えている。試作版は1ページごとのテキストとして「家族会」「市民講座」のワークショップで話題提供に活用して好評だった。発達障がい当事者会では、各々の関心のあるテーマを取り上げ意見交換ツールとして有効活用できることが分かり、今後も継続して使用してゆくことにしている。当初予想していなかった活用方法が発見でき、この活動に挑戦して良かったと話している。



事業を実施しての課題

冊子「あるあるあつめ」に関しては満足のいく物が制作できたとは思えない。当事者会に参加した方々が加わることで、専門書に有るような言葉は使わずに、より日常から発する当事者の言葉に近づけるよう、以後も拘って制作を続けて行こうと話している。イラスト製作者の発掘（当事者に依頼したい）を急ぎたい事と、編集にアドバイスを頂ける方の確保も課題として残った。

**〈令和5年度〉ミライカナル活動サポート事業 協働コース（行政との協働）**

<b>団体名</b>	みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ
<b>協働相手</b>	藤沢市 子育て企画課
<b>事業名</b>	子どもの居場所スタートアップサポート事業
<b>事業期間</b>	2023年（令和5年）4月1日～2024年（令和6年）3月31日〈事業1年目〉
<b>事業費</b>	1,549,850円（うち藤沢市負担金 1,500,000円）

**事業の目的**

子どもの居場所づくりを始めたい市民を対象に、仲間づくりと、実施に向け一歩を踏み出すサポートをすると同時に、藤沢市子ども共育計画の指標である「子どもの居場所を増やす」の達成と、市民の家の有効活用を目的とする。

**事業の内容と成果・効果**

- 2023年6月～9月 『第1期 子どもの居場所スタートアップサポート講座』開講  
14：00～16：00@湘南台公民館

DAY1 6月17日（土）「知り合おう」

オリエンテーション、自己紹介、7つの習慣①主体的である  
藤沢市子ども共育計画、市民の家（藤沢市）

DAY2 7月15日（土）「夢を具現化しよう」

事例紹介・子育てひろば（れいんぼ〜かふえ 鈴木氏）  
・遊び場（ボドツナ 長山氏）  
・不登校支援等（自由創造ラボたんぼぼ 米澤氏）他  
支援者の在り方（湘南DVサポートセンター 瀧田氏）

7つの習慣②終わりを思い描くことから始める ③最優先事項を優先する

DAY3 8月19日（土）「課題を知る」「傾聴のポイント」

助成金、保険について（れいんぼ〜かふえ 鈴木氏）  
傾聴のポイント（湘南学校教育研究所 橋本氏）  
7つの習慣④Win-Winを考える⑤まず聞き、それから伝える

DAY4 9月16日（土）「計画を立て、実行しよう」

グループ毎に事業計画の作成、発表  
7つの習慣⑥シナジーを創り出す⑦刃を研ぐ  
居場所ネットワークについて

- 2023年11月～2024年2月

『第2期 子どもの居場所スタートアップサポート講座』

10：00～12：00@藤沢公民館（Fプレイス）

DAY1 11月9日（木）/DAY2 12月14日（木）

DAY3 1月11日（木）/DAY4 2月8日（木）

第2期も第1期と同内容にて実施



第1期WSの様子

〈成果・効果〉

- WS実施回数 第1期、第2期：4回×2時間、他欠席者向けにオンライン振り返り会6回  
オンライン勉強会6回、個別相談15回実施
- WS参加者数 第1期：18名、第2期：19名 計37名（20代～70代）
- 2023年度受講生の状況①2024年度の開所に向け準備中5名、②数年後の開所を目指す14名、③企業から参加（事業に学びを活かす）3名、④現在の活動に学びを活かす11名、⑤既存の居場所にボランティアで入る2名、⑥れいんぼ〜かふえのボランティア4名となっている。その他、公民館に団体登録した方や、食品衛生責任者講習を受講した方、まずはボランティアに入りながら準備する方など、たくさんの動きが見えている。
- 仲間づくり・・・れいんぼ〜かふえの仲間となり、WSサポートや居場所ボランティアに加わる参加者や、第1期・第2期で同じ目的の参加者が協力し、居場所開所に向けて動き出している。

**事業を実施しての課題・今後の取組**

- 中間報告の際に課題に挙がっていた時間配分については、第2期に改善できた。
- テキストは第2期終了後に作成できたので、第3期より活用する。
- 残された課題としては、居場所ネットワークHP制作を進めることと周知活動。
- 参加者アンケートにて、参加者同士の交流の時間がもっと欲しいとの声が多いので、第3期より改善予定。

**〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 協働コース（行政以外との協働）**

<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 湘南食育ラボ
<b>協働相手</b>	特定非営利活動法人 laule'a
<b>事業名</b>	ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン
<b>事業期間</b>	2023年（令和5年）4月1日～2024年（令和6年）3月31日〈事業2年目〉
<b>事業費</b>	1,550,172円（うち藤沢市補助金 1,000,000円）

**事業の目的**

加齢による嚥下障害については知られていますが、食べることに困難を抱えている子どもたちがいることはあまり知られていません。ラウレアさんとのやり取りの中で嚥下に障がいのあるお子さんが外食時、中でも七五三やクリスマスなどの”ハレの日”にも家族で同じものが食べられなかったり持込も拒否されたりすることがあるということを知りました。家族で楽しめるハレのディナーのランチ、ディナーの宅配とともに、食形態に関わらず家族で同じ食事が楽しめるユニバーサルレストラン等をプロジェクト化し障がいによって嚥下の難しいお子さんとご家族が笑顔で食生活を送れる為の活動を推進します。

**事業の内容と成果・効果**

- ・2023年4月 昨年度実施したアンケートや視察を元に、実際のユニバーサルレストラン実施に向けた環境作りやユニバーサルレストランメニューの考案を開始
- ・2023年5月 研修の受講及びメニューの試作等を実施①
- ・2023年7月 スナック都ろ美講習会・試食会の受講  
講師2名、参加者21名  
(湘南食育ラボ、laule'a、嚥下障がいのある方及び家族)
- ・2023年8月 研修の受講及びメニューの試作等を実施②  
ユニバーサルレストラン会場の視察・決定
- ・2023年9月 予約システムの運用開始
- ・2023年10月 研修の受講及びメニューの試作等を実施③
- ・2023年11月 ユニバーサルレストラン会場の装飾を製作  
(クリスマスツリー壁面装飾、ガーランド作成等)  
チラシ印刷 250部(養護学校、市役所、市民センター他)  
研修の受講及びメニューの試作等を実施④
- ・2023年12月 「ユニバーサルレストラン実施」12月10日(日)  
会場 Nico's Kitchen(藤沢市大鋸)  
来場者 5家族(嚥下に障がいのある方5名、ご家族7名、  
他市民活動推進センター取材)
- ・2024年1月 レストラン実施の振り返り



〈成果・効果〉

目ざす成果は、「食のバリアフリー」の実現により、異なる食形態でも楽しく食事の場を共有する機会を広げること、社会参加のハンディとなっている食の場の制約を解消することでした。



具体的目標は3～5家族でしたが、実際は5家族の参加がありました。今回の参加者の多くは laule'a や市民活動推進センターに関わる方が多かったですが、取り組んでいる社会(地域)を藤沢と考えると、藤沢市内にいるお子さんの嚥下障害



により食事に困難を抱えているご家庭の悩みを少しは解消し、暮らしの豊かさの向上に繋がったのではないかと思います。

**事業を実施しての課題・今後の取組**

本事業開始前に想像していたよりも遥かに嚥下による障がいによって食形態に配慮の必要なお子さんとそのご家族は様々な場面で苦労を感じていることが分かりました。しかし、そういったお子さんの数は決して多くないため、なかなか理解や支援が進んでいないのが現状であり課題と感じています。例えば、飲食店でペースト食や刻み食の提供だけで手間もかかり、大型の車椅子が入れるようにすると更ハードルも上がります。そのため、個々のお店や事業者だけでなく行政も補助金等で関わっていただければ、少しずつ解決していくのではと感じました。

団体内部の課題も上記の課題に通じることですが、やはり個人レベルでこういった食事を提供するにはコストもかかり集客も容易ではないということです。たくさんの人を集めすぎても対応は難しいですが、数人だけしか集まらない場合も一人当たりの金額が上がってしまうなどの問題があると感じています。

**〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 協働コース（行政以外との協働）**

<b>団体名</b>	関内イノベーションイニシアティブ株式会社
<b>協働相手</b>	株式会社フジマニパブリッシング
<b>事業名</b>	湘南セカンドキャリア地域起業セミナー
<b>事業期間</b>	2023年（令和5年）4月1日～2024年（令和6年）3月31日〈事業2年目〉
<b>事業費</b>	1,744, 886 円（うち藤沢市補助金 1,000,000 円）

**事業の目的**

営利・非営利、事業分野の枠を超えた地域起業の担い手の創出と、それらへの支援体制の構築をはかり、藤沢における地域活動や地域経済の活性化をはかる。

**事業の内容と成果・効果**

- 2023年6～8月 チラシ印刷 1,000部（市役所、市民センター、市内金融機関）  
 〈広報活動〉 ウェブサイトの制作、Facebook 広告掲載  
 広報ふじさわ7月25号掲載、湘南掲載新聞8月8号記事掲載
- 2023年9～11月 『第2回湘南セカンドキャリア 地域起業セミナー』開講  
 〈セミナー実施〉



〈成果・効果〉

- 【1. 講座】「湘南セカンドキャリア地域起業セミナー」参加者18名  
 “具体的な起業プランの構築”と“セカンドキャリアについての関心”  
 に応えるべく、地域データや地域事情、事業計画、収支計画などの知識  
 を得るための講座、地域の起業のビジネスモデルや実際の起業家の講  
 話、現場視察をバランスよく配置した講座設計は、学習意欲が高く多様  
 な背景や起業段階にある受講生に高密度な学びの場を提供できた。
- 【2. 支援機関アプローチ】「地域起業支援機関交流会」参加 8 機関  
 地域起業支援機関情報交換会では、起業を果たした前年の受講生よ  
 る事例紹介を行い列席者から高い関心を得た。地域課題に即した起業  
 の価値を理解する機会となった。



- 【3. 受講生の行動変容への働きかけ】受講生同士のコミュニケーションや講師等への質問・相談などの時間を設けた  
 結果、自己理解を深め気づきを新たにしたり、イノベーションスナックみらぼにてプランの相談を行う等、次の行動  
 につなげる者も出現した。事務局からのわずかな後押しで、受講生は一步を踏み出すという実感を得た。

**事業を実施しての課題・今後の取組**

- 【1. 講座について】受講生それぞれに多様な起業段階・背景・動機があり、その各人の目的を満たす場になったが、受  
 講後に得られた知識を活かしての受講生同士のプランのブラッシュアップやディスカッションの時間を多めに設定する  
 ことの必要性も感じられた。
- 【2. 受講生の行動喚起】課題であった受講生同士の交流に関し、第3回の講座後にランチミーティングを、講座終了後  
 には第一期と二期受講生交流会を設定した。実施は好評で早期からのコミュニケーション作りに効果があった。
- 【3. 情報の提供】受講生の中には、コミュニティへの誘いや行動の第一歩に向け背中を押すだけで、新たな展開に繋がる  
 方もいた。情報の提供とその情報にいかに関わってもらうか（紹介に留まるのか、その場所まで同行するのか等）の事  
 務局側のバランスの取り方も課題となる。

発行：2024年(令和6年)7月